様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６６０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００３９９

研究課題名（和文）英国スチュアート朝における商業劇団の活動と終焉　―劇場閉鎖までの上演劇の変化―

研究課題名（英文）Repertory and Performance of the Playing Company in the Early Stuart Period : 1603-1642

研究代表者
小林　酉子（Kobayashi, Yuko）

東京理科大学・教養教育研究院野田キャンパス教養部・教授

研究者番号：６０２７７２８３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、英国スチュアート朝時代に王室メンバーのお抱えとなった商業劇団が宮廷・民間各々の演劇舞台でどのような劇をどのような演出で上演していたかを検証し、劇団活動が王制転覆に至る社会転換にどのように係わったかを明らかにした。
二代の王の宮廷では金銭上、モラル上の腐敗が進み、富裕層が集まる市井の室内劇場ではこれらを題材にする戯曲の上演が増えていった。一方、宮廷では王権神授説に基づくテーマのマスクが繰り返されていた。このように宮廷・民間の演劇舞台では、劇テーマの解離が時代と共に進んでいた。劇団はこの双方を行き来しながら、商業劇場で王政批判の芝居を上演し、その転覆に寄与したといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
英国ルネサンス演劇については戯曲本文、劇場建築、舞台装置、社会的背景についての従来の研究に加え、近年、欧米ではエリザベス朝物質文化、服飾文化を検証する社会史的考察も行われてきた。一方、国内では舞台衣装や演出に焦点を当てた研究は殆どみられない。
本研究は国内外ともで見落とされてきた分野を対象とし、チャールズ王時代末までの舞台演出と衣装の実態解明を行った。英国史上初めて王政が転覆するまで、商業演劇は隆盛から停止へと短期間で激変した。王室と民間双方の舞台で、演劇が社会に与えた影響を歴史的に解明した本研究は、国内・国外で先例のない取り組みである。

研究成果の概要（英文）：The study explored performances and costumes in royal and civil theaters during the early Stuart period. The royal members patronized the commercial playing companies, and they performed both at the court and in civil theaters. The court theater featured masques that celebrated the divine right of kings, while plays with decadent themes became popular among citizens because the court of the two Stuart kings was known for its decline. In the reign of Charles II, plays in civil theaters became more radical to criticize the monarchy and court, which evoked revulsion from audiences against them. The situation could motivate the overthrow of the monarchy.

研究分野：英国ルネサンス演劇の演出と舞台衣装

キーワード：英国スチュアート朝演劇　宮廷マスク　舞台衣装　商業劇団　英国ルネサンス演劇

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

英国ルネサンス演劇については、どのような衣装でどのような演出で芝居を演じていたのか、その実像は不明確であった。近年、欧米ではエリザベス朝物質文化、服飾文化を検証する社会史的考察も行われている一方、国内では舞台衣装や演出に焦点を当てた研究は殆どみられない。小林は2004年以降、国内外ともで見落とされてきた分野であった英国ルネサンス時代の演劇衣装と演出を可視化する研究を行ってきた。また王室と民間双方の舞台で、演劇が社会に与えた影響を歴史的に解明した研究は、国内・国外で先例のない取り組みである。これまでの対象はチューダー朝時代であり、本研究はジェイムズ1世代からチャールズ1世代を中心とする。16世紀後半から、王侯貴族のお抱え劇団がロンドンの劇場を本拠とする職業劇団となり、エリザベス時代末には観劇が娯楽の中心となった。観客が増え、経済的に豊かになった劇団は、新作あるいは再演の芝居に衣装を新調できるようになり、劇作家に自由な作劇を促すことも可能になった。このように商業劇団の成長は衣装調達、舞台演出と密接に結びつき、ルネサンス演劇の興隆を導いた。スチュアート朝で王室メンバーのお抱えとなった劇団は宮廷との関係をより密にしたが、王政転覆に至るまでに商業劇場で上演される戯曲は変化していった。本研究はこの変化の過程を辿っている。

２．研究の目的

スチュアート朝2代の間、劇団は王室のお抱えとなって宮廷での劇公演は激増し、宮廷マスク（仮装仮面劇）にも出演した。一方、市井ではエリザベス時代からの野外劇場に加え、富裕層向けの室内劇場の数が増え、商業演劇はさらに興隆した。

本研究は宮廷、民間演劇舞台の各々で商業劇団がどのような劇をどのように演じていたのか、上演劇と演出の変化を追って、これまで明確にされていなかった当時の舞台の実態解明を目指すことを目的(1)とした。またスチュアート朝における商業劇団の活動を通して、演劇が社会相をどのように映し出し、社会の転換にどのように係わっていたのかを明らかにすることを目的(2)とした。

３．研究の方法

[宮廷演劇舞台について]　宮廷マスクでは王侯貴族が神々などを演じ、特にチャールズ時代には王権神授説を体現する夢幻的テーマが目立つ。彼らの衣装や装飾品は演者個人の負担であり、王室・貴族の財政悪化を招いた。一方で、その演出は助演者であったプロ俳優によって、市井の劇場の芝居に取り入れられた。マスクのテーマと演出の実態、劇団の係わりを検証するため、王室会計記録等の一次史料のほか、衣装・舞台デザイン画、戯曲本を使用した。またマスクが王室財政を圧迫し、宮廷批判を招く要因となったことを大使や観客の通信記録等から明らかにした。

[民間演劇舞台について]　商業劇場に関する一次史料と研究書によって、人気を呼んだ芝居のテーマを経年的にたどり、時代の様相を検証した。また劇団が宮廷演劇の演出・意匠を室内劇場にどのように取り入れていたのか、舞台の可視化を目指した。

宮廷・民間それぞれの舞台での演出や衣装の実像、上演テーマの変化を検証することによって、ジェイムズ王即位(1603)から革命前夜の劇場閉鎖(1642)まで、社会相が舞台にどのように映し出され、社会転換に演劇がどのように係わったかを解明した。

４．研究成果

[本研究で明らかにしたこと]

(1) 民間劇場での宮廷マスク風演出の増加：スチュアート朝では王室メンバーがそれぞれに商業劇団のパトロンとなったため、劇団と宮廷の関係はエリザベス時代に比べて、より密になり、宮廷での公演回数も増加した。職業俳優は王侯貴族が主演者のマスク(仮想仮面劇)にも脇役として雇われ、マスクの豪華な意匠を市井の劇場にも反映させた。シェイクスピア晩年の『シンベリン』『テンペスト』はその代表例で、マスク的な劇中劇が組み込まれている。

(2) 舞台衣装調達方法の変化：王室との関係が密になるにつれ、劇団側の舞台衣装調達方法にも新たな流れが生じた。商業劇場の芝居『チェスゲーム』(1624)は、スペイン大使役の俳優が、大使本人の不要衣服を入手して演じ、問題となった。また1634年には、演劇好きなチャールズ王王妃が、自身と貴族女性が着用した舞台衣装を商業劇団へ下げ渡し、俳優たちがこの衣装で演じ、批判の的となった。これらの事例は、エリザベス時代には見られなかった劇団と宮廷の密な関係を物語る。

(3) 室内劇場と野外劇場での劇テーマの隔たり：エリザベス時代から庶民の観客を集めた野外劇場は、ジェイムズ王時代に入ると次第に衰退した。入場料が高額で、より収益の上がる室内劇場に商業劇団の活動がシフトしたことが主な理由である。蝋燭や松明の照明を利用する室内劇場では、幻想的なマスク的場面を導入しやすかった。また富裕市民層が集まる室内劇場では、貴族社会の腐敗をテーマとする劇上演が増えていった。一方、野外劇場は労働者階級の観客が多く、芝居のテーマは剣劇場面やダンス、悪魔の登場などエリザベス時代からの演目が人気であった。貨幣経済の浸透によって台頭した商人階級は室内劇場に集まり、王政批判を強めていった。

(4) 宮廷と民間演劇舞台でのテーマの乖離：スチュアート朝期の商業劇団は宮廷との係わりを強めていたが、時代が進むにつれて市井の劇場では貴族の腐敗をテーマとする芝居が増加した。貴族社会の陰謀や毒殺を扱う『白魔』(1608)や『モルフィ公爵夫人』(1614)がヒット作となるなど、宮廷の腐敗や貴族衰退の現実が舞台に投影された。これに対して王侯貴族が演じる宮廷マスクでは王権神授説や牧歌的田園を描いたパストラルと呼ばれるテーマなど、現実から遊離した内容が目立つ。両者のテーマの相違は、興隆する商人・市民階級と宮廷貴族の分断を映し出している。

(5) 王政転覆への演劇の関与：貨幣経済の浸透によって117世紀初頭の商人・市民階級、職業組合（ギルド）は貴族階級を凌ぐ経済力を有した。有力ギルドが中心となって行う市長就任式は野外舞台ペジェントが市中に設営され、豪華なパレードが行われた。これには俳優も登場し、劇作家が演出を担った。演劇関係者は市民側とこのような形でも繋がりを深めていた。商業劇団はまた、観客市民の嗜好に沿った芝居の公演を行なっていた。高位貴族の腐敗を描いた『白魔』や『モルフィ侯爵夫人』、貴族に取り入り金儲けに走る商人が主人公の『宮廷乞食』などは、その代表例である。これらの反王制・反宮廷劇は、内乱を後押しする機運醸成に関与した。特に1640年に上演された『宮廷乞食』は、国王の施策の中で悪評高かった専売特許権を可視化する衣装を用い、1642年の内戦を誘発したといわれる。

[本研究の成果]

本研究およびこれまでの研究の結果をまとめた書籍『本当はこんな格好だった　―シェイクスピア劇初演当時の演出と衣装―（上巻）神々、亡霊と悪魔』、『同（下巻）道化と精霊、異国の人々』を2024年に刊行した。同書は、英国ルネサンス劇の特徴的な役柄である古典古代の

神々や英雄、魔女や悪魔、道化、妖精などがどのような演出・衣装で演じられていたか、チューダー朝からスチュアート朝までの宮廷饗宴・商業劇場に関する一次史料、二次史料をもとにまとめたものである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 小林酉子	４．巻 4-1
２．論文標題 スチュアート朝における舞台衣装とその調達事例　ー商業劇団と宮廷、民衆社会の関係ー	５．発行年 2021年
３．雑誌名 服飾学研究（論文編）	６．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計2件

１．著者名 小林酉子	４．発行年 2024年
２．出版社 Amazon.co.jp	５．総ページ数 181
３．書名 本当はこんな格好だった　ーシェイクスピア劇初演当時の演出と衣装ー　（上）神々、亡霊と悪魔	

１．著者名 小林酉子	４．発行年 2024年
２．出版社 Amazon.co.jp	５．総ページ数 213
３．書名 本当はこんな格好だった　ーシェイクスピア劇初演当時の演出と衣装ー　（下）道化と精霊、異国の人々	

〔産業財産権〕

〔その他〕

東京理科大学 研究者情報データベース https://ridai.admin.tus.ac.jp/ridai/doc/sy/RISYZ01.php

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関